

ヒヤリ・ハット が事故のもと

現場で作業をしているとき、こんなことはありませんか？

- 「足場の上でつまずいて転んだ」
- 「つり荷が落ちそうになった」
- 「重機の操作をまちがえた」
- ・・・

こんな「ヒヤリ」としたり、「ハット」したりした体験をそのまま放っておくと、いつか、だれかがケガをすることになりかねません。ひとりひとりの「ヒヤリ」「ハット」体験を、事故防止に役立てましょう!!

みんなのものに・・・

どんなささいな「ヒヤリ」「ハット」でも、気軽に話し合しましょう。その体験をもとに、同じようなことが繰り返し起こらないよう、みんなで知恵を出し合って危険の芽を取り除いていくことが大切です。



ヒヤリ!

ハット!



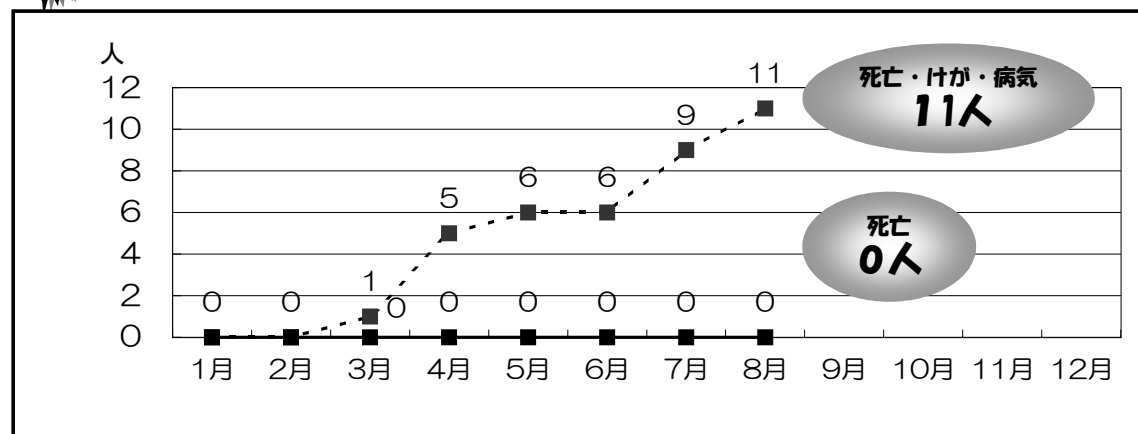
その日のうちに・・・

貴重な「ヒヤリ」「ハット」体験も、ひと晩寝ると忘れてしまいがち・・・。体が記憶しているその日のうちに、みんなに話したり、メモをとっておきましょう。毎日の作業を終えるときに話し合えるといいですね。



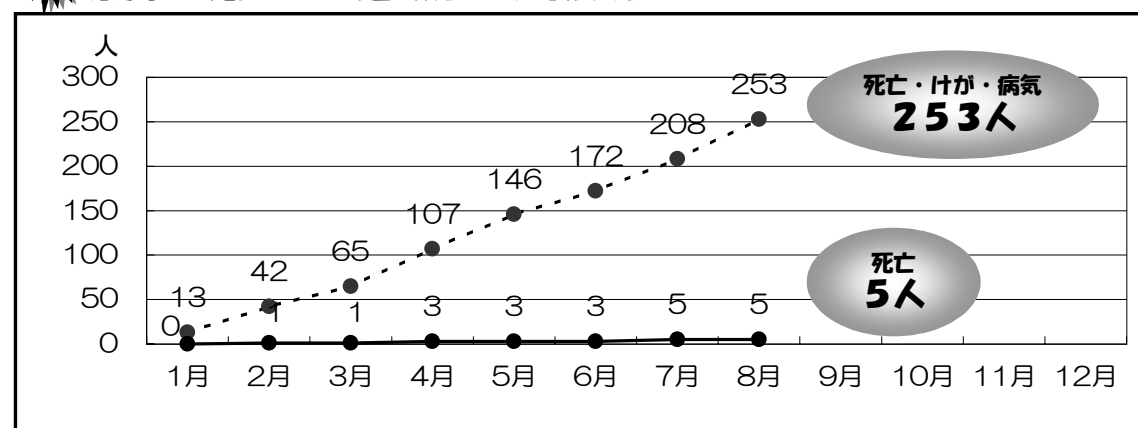
県が発注した工事での死傷災害 (累計)

平成14年8月末



県内で発生した建設業の死傷災害 (累計)

平成14年8月末



※宮城労働局統計



ハインリッヒの法則

1931年、アメリカのハインリッヒという人がたくさんの事故や災害を分析して導き出した「災害比率の法則」です。1人の人間に同じようなミス、またはミスをしかかったことが330回あったとすると、ほとんどは「ヒヤリ」「ハット」です。10回に1回は軽微な災害になり、30回に1回は重大な災害が発生する可能性があることを示しています。重大な災害を防ぐためには、たくさんの「ヒヤリ」「ハット」をなくしていくことが大切!!という教えなのです。

